

ま ち の 話 題



松崎百年ばなし 鶴が来た村

田熊正子さん(三沢)作の「松崎百年ばなし」の一話で、松崎がかつて宿場町であったころの旅籠「鶴小屋」を題材にした作品の語り聞かせが、12月23日に行われました。会場は、作品の題材となった「鶴小屋」で、所有者が数年かけて、改修を続けていました。昔ながらの広い土間と大きな柱や梁の家屋の中で、当時の世界へ導くような福永厚子さん(小郡)の朗読に、訪れた観客は引き込まれていました。同時に開催された、野田宇太郎写真展では、野田が生まれ育ったふる里「松崎」の風景が写真で紹介され、野田の作品などと併せて展示されていました。



窯焚き体験を行いました

▲土器を焼く窯の前で記念写真

ものづくり講座の中で作った土器を、1月11日、「古代体験館おこり」にある窯で、講座参加者やボランティアが協力して焼きました。土器は階段状に窯に並べて焼きます。3日3晩、薪をくべつつ、空気の通り道を作り温度を徐々に上げていき、最高1,200℃にします。途中で、平安市長も参加し、みんな火の熱さに負けずに頑張りました。その後、窯閉じをして、4日後に窯開きを行いました。ふたを取ると、どれも素晴らしい土器が出来上がっていました。



▲元気のでるメニューを紹介しました



▲実践報告会

早寝・早起き・朝ごはんフェスタ

▼たこ作り



早寝・早起き・朝ごはんフェスタ「聞く・話そう子ども生活リズム」と題した実践報告会が1月13日、総合保健福祉センター「あすてらす」で開催されました。「インタービュロダイアログ」として開催された実践報告会では、コーディネーターの横山正幸さん(福岡教育大学名誉教授)が、パネリストの西村栄子さん(三國幼稚園保護者)、光岡由紀子さん(のぞみが丘小学校保護者)と武藤由美子さん(小郡中学校保護者)から子ども達の日頃の生活状況などを聞き、会場の参加者と情報交換を行い進めました。遅い睡眠や朝食を摂るかどうかが学力と関係することなどが示され、食事や睡眠といった基本的な生活習慣の確立がとても大切であることが指摘されました。また、お昼ごはんは、給食センターが勧めた、おいしくて元気のでるメニューを紹介されたり、友達との活動的な遊びをするためのたこ作りや本の読み聞かせなどの「子ども遊び広場」が開設され、会場を訪れた親子づれが楽しく過ごす姿が見受けられました。

ま ち の 話 題



▲平安市長へ出場を報告する山下健太さん

1月11日、山下健太さん(大原中3年)が広島市で開催される第13回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会に出場することを平安市長に報告しました。この大会は、全7区間(中学生2区間、高校生3区間、社会人または大学生2区間)48kmで各都道府県を代表するランナーが健脚を競います。昨年11月に行われた福岡県の選考会で中学生部門1位のタイムを記録したことから、出場する中学生のメンバーに選ばれました。

なお、1月20日に大会は開催され、山下さんは第6区(3km)をみぞれの中力走しました。

都道府県対抗駅伝大会に出場



▲子ども達に指導する帆足選手(右)と松永選手

12月23日、小都市野球場において、埼玉西武ライオンズの帆足幸選手(花立出身)と松永浩典選手による「少年少女野球教室」が開催されました。参加した市内外の15チーム、175人の子ども達は、プロ選手としての心構えなどの話を熱心に聴き、ピッチングや打撃の要領などの指導を受けていました。

参加した子ども達からは、「練習が楽しかった」「打つときの参考になった」などの声が続々と返ってきました。

主催した、公園ふれあい公社(理事長 倉重副市長)では、「プロの選手に直接指導してもらうことで、子ども達の練習の励みになり、将来、この野球場を利用する子ども達の中から、帆足選手に続く選手が登場することを期待しています」と話していました。

帆足選手の野球教室



高松凌雲生誕祭

古飯区、高松凌雲顕彰会および宝城地域まちづくり会議などが中心となって、12月16日、日本赤十字の祖といわれる、高松凌雲の生誕を祝いました。

式では、参加者が記念碑に献花し、偉人の生涯を偲びました。

凌雲は、天保7(1836)年、現在の小都市古飯に生まれ、23歳の時に医師を志して脱藩し江戸へ出ました。慶応2(1866)年、仕えていた慶喜が15代將軍を継ぎ、凌雲は奥詰医師に任命されました。パリで開催された万国博覧会に医師として随行し、その後パリに留学し外科学を学びました。慶応4(1868)年、鳥羽・伏見の戦いで急きよ帰国し、函館に向かいました。

激戦で両軍ともに負傷者が出る中、凌雲は箱館病院で、敵味方なく治療をしました。これにより、凌雲が日本赤十字の祖といわれているゆえんです。東京に戻った凌雲は、明治12(1879)年に仲間と無料で診療する「同愛社」を設立し、貧しい人々に医療活動を行いました。大正5(1916)年、東京・上野の自宅で、波乱に満ちた生涯を閉じました。



▲平安市長へ出場を報告するFCターキーの皆さん

全日本ユース(U-15)フットサル全国大会出場

12月21日、フットサル福岡県大会で優勝した、FCターキー(藤井淳監督)の選手が、平安市長を訪問し全国大会への出場を報告しました。FCターキーの全国出場は4年ぶり2回目となります。

選手の一人、今村優平さん(宝城中3年)は、落ち着いて自分のプレーをし、勝ちに行きたいと全国大会へ向けての抱負を力強く語ってくれました。

選手のほとんどが3年生ということもあり、市長は、勉強とスポーツの両立は大変だけど、頑張ってください」と激励しました。